
伝えきれない、この気持ち

志崎 遥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

伝えきれない、この気持ち

【Nコード】

N4235P

【作者名】

志崎 遥

【あらすじ】

世の中には、いろいろなモノが存在するのです。

（前書き）

恋愛……かな？

突発的に書いていたら、よくわからないものが出来上がってしまいました。

少々分かりづらiyaもしれません。

全ての始まりは私だったというのに、どうして最後まで残ったのが、私なのでしょうか。

伝えたいことがあるの。

一緒にいてくれてありがととか、迷惑かけてごめんねとか、言い出したら切りがないほどたくさんのことよ。

全部言い終えるまでに、私はどれほどの時間を費やすのかしら。

あなたはいつも、口下手な私の話し相手をしてくれたわよね。

世間知らずな私に、あなたは嫌な顔一つせずに、一つ一つ丁寧に教えてくれたわ。

いいえ、嫌になったことは何度もあったでしょうね。だけれど、あなたは物分かりの悪い私に優しく接してくれた。

お母様も、お父様も、女中達も、誰一人いなくなってしまったとき、最後まで残って私の相手をしてくれたのは、あなただったわ。皆が怖がるこの私を、きちんと受け止めようとしてくれたのは、あなただけだった。

最初は、あなただって恐ろしいと感じたのでしょうか？ 別に隠さなくてもいいのよ、それが当然のことだもの。それとも、信じていなかったのかしら。私の、“体質”については。

私ね、最初は少し、息苦しかったのよ。あなたがあまりに“普通に”接してくれるものだから、私は私が“普通”なんじゃないかって、勘違いしそうになったこともあったわ。

けれど、その勘違いもそう長くは続かなかったわね。初めて、私の“体質”を目の当たりにした、あなたの顔ったら！ 一生忘れられそうにないわ。

そのとき、私正直、すごくがっかりしたの。あなたが、他の人達と同じ顔をするんだもの。あなたも同様に、すぐに出て行ってしまうのかと思っていたのよ。

だから、ねえ、次の日あなたが私の部屋へ平然とした顔で現れたときの、私の衝撃が分かる？

驚いて、どうしてここにいるの、と問いかけた私に、あなたは言ったわね。

「私はあなたの世話係なのだから、この部屋に来るのは当然だ」と。

すごく、泣きそうになったの。あなたは気づかなかったようだけれどね。

でもやっぱり、楽しい時間というものは、その楽しさに比例して早く過ぎ去っていつてしまうものなのね。

“人間”には、寿命というものがある。そのことに、これほど怒りを覚えたことはないわ。

もうすぐ、あなたと出会い、別れた季節が来る。

初めて出逢ったあなたは、いくつ年上だったかしら。とても背が高く、幼心に、この人は巨人なのかしら、なんて思ったのを、今でも覚えているわ。

あなたがいなくなつて幾度季節を廻つたか……もう忘れてしまつたけれど、この城に訪れる人間はいなくなつたわ。それもそうでしょう、この国にはもう、人間というものが存在しないのだから。

あなたが亡くなつた後すぐ、この国で革命が起こつたの。不老不死だとか言う、得体のしれない不気味な姫のいる王族に従いたくないっていうのは、当然のことよね。

お父様は必死に隠そうとしていたらしいけれど、悪い噂というものは案外、いろいろなところから漏れてしまうことだもの。

革命が済んでも、私は殺されなかった。まあ、あちらとしては殺したかつたのしょうけど、当の本人でさえその方法を知り得ないのだから、それはいくらなんでも無理難題というものね。

私はそのまま隔離されて、食事も与えられなかったけれど、命は尽きなかった。

統率者を失つた王国は、すぐに衰えていったわ。隣国に攻められ、もはやこの地に残るものもいなくなつてしまった。

どうして、私はこんな体に生まれてきてしまったのでしょうか。

私は、“普通の”女の子になりたかつた。

あなたにふさわしい女性になりたかつただけなのよ。

この間、私と外界を隔てていた鉄格子が、ようやく朽ちてきたの。せめて、私と関わつた方々だけでも、体は埋葬してあげたかつただけけれど、もう骨も残っているかどうか。

ああ、でも、どちらにしろ駄目みたいね。

最近、だんだん身体が動かしづらくなってきたの。

私は、ようやく“人間”になれたということかしら。

嬉しい半面、少し戸惑いの方が大きいのよ。

私は、まだ償わなければいけないことがあるのではないかって。

それでも、もし、もしも許されるのなら、もう一度あなたに逢いたい。

ねえ、私、あなたに会えて本当に嬉しかったの。

だから……今度は、私から逢いに行ってもいいですか？

（後書き）

読んでくださってありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4235p/>

伝えきれない、この気持ち

2010年12月11日02時32分発行